

# 第 6 2 7 回 放送番組審議会

## 議事録

2026年3月17日（火）



## 第 6 2 6 回 放送番組審議会

1. 日 時 2026年3月17日(火) 午後1時30分

2. 開催場所 テレビ岩手6階 大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 7名

副委員長	菅原 和宏
委員	中野 美知子
委員	岡安 大地
委員	畠山 正
委員	大森 健史
委員	保 和衛
委員	千葉 幸子

欠席委員 2名

委員長	岩館 めぐみ
委員	渡邊 里沙

### 社側出席者

福士 千恵子	代表取締役社長
池田 学	専務取締役経営企画局長
小形 恵一	取締役報道制作局長
菊池 健	報道制作局報道部長

### 事務局

桑島 広実 (執行役員編成局長)

#### 4. 議 題

1. 3/8 (日) 25時05分～26時00分

「NNNドキュメント'26 東日本大震災15年 あの朝、私は・・・」

2. その他

#### 5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

・視聴者からのご意見

#### 6. 意見

##### 【委員側意見】

○東日本大震災についての番組は、見ていて辛い思いをすることもある。好んで見ようとする人は多くないかもしれないが、震災の恐ろしさや被害にあわれた方々の実情を知るには、テレビ番組がやはり一番多くの人に届くツールであると感じた。

○当時大変な思いをされた方々の15年の暮らしぶりを描いたことによって、震災の経験がない人も番組を見て自分の事として考えられたと思う。3県の局が共同で制作した番組であると思うが、「朝」というテーマのとらえ方に3局の統一感がないように感じた。

○山田町の家族を軸に、様々な人の震災当時とその後を追った内容の濃い1時間番組だった。被災経験を無駄にしない取り組みが重要だということを改めて認識できた。震災に翻弄されながらも強く生きていく人々の姿から、多くの学びがあった。

○ナレーターの富田望生さんを起用した理由を教えてください。エンディングの「世の中の時計の針は等しく進まない」という言葉はまさにその通りで、登場人物の様々な場面を見る事によってそれぞれの15年を感じた。

○トンネルを抜け明るくなる車窓の映像がご家族の心情を象徴していたり、映像が工夫されていると感じる場面がたくさんあった。山田町のご家族の取材で、テレビ岩手だけが自宅に上がって撮影させていただいたと思われる場面があり、取材対象者との信頼関係が素晴らしいと感じた。

○東日本大震災のドキュメントを見るのは辛く、自分はまだ真正面から向き合うことはできないと感じた。山田町のご家族のお父さんの「なんであの日だったのか」という言葉が印象的で、自分の暮らしが重なるところもあり、切なかった。

○3県の局が、多くの被災者に寄り添いながら丁寧に取材を続けていることが、番組の奥行きの高さにつながっていると感じた。テレビ局側のスタッフの人間性や心の構え、接し方などがあって、被災者の皆さんの心の底からの気持ちや本音を言葉にすることが出来ているのではないかと思いつつながら、番組を見た。

##### 【局側意見】

○東日本大震災の被害は、地震・津波・原発事故の複合的な要素があり、それを面にとらえるためNNNドキュメントではこれまでも岩手・宮城・福島で3局共同で番組を制作してきた。

○「朝」をテーマにしたのは、あの日だれもが穏やかに迎えたであろう朝を振り返ることによって、被災していない人でも自分の事としてとらえていただけるのではないかという意図があった。自然災害は他人事ではないという思いを伝えたかった。

○「朝」というテーマについて、3県の局の制作担当者間でとらえ方の差があったかもしれない。

○ナレーターの富田望生さんの起用は、3年ほど前からオファーを続けて今回出演に至った。富田さんは福島県いわき市の出身で首都圏に避難をした経験があり、声ににじみ出る心の中の思いが視聴者に伝わると考えた。

#### 7. 審議機関の答申または意見の概要公表の方法及び年月日

①自社放送 3月26日（木）11:25～11:30「あなたと歩むテレビ岩手」

②テレビ岩手本社での据え置き